

日野江城跡から
出土した金箔瓦。
見ていると、
在りし日のきらびやかな
城の姿が浮かんでくる。

南島原市

ふるさと再発見



長崎の南部、島原半島の南東部に位置する南島原市。市は深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の八つの町で構成されている。九州最大の湾、有明海を挟んで向かいには熊本県天草地域が見える。

八つの町に共通するもの——それは、キリスト教にまつわる歴史である。かつて、ここではキリスト教が大いに栄え、祈りの声とともに、通りには聖歌が響き渡っていた。現在、まちを歩いていてもキリスト教を連想させるものに出会うことは少ないが、それは跡形もないほどに、徹底的にキリシタン弾圧が行われた証でもある。

そんなキリスト教の繁栄と弾圧の悲劇の歴史を物語っているのが「日野江城跡」と「原城跡」。この二つの城跡は、世界遺産登録を目指している「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産としても注目を集めている。

南

四百年前、
そのまちは聖歌に
包まれていた。



原城跡の十字架

三万七千人もの人々が
血を流して戦った原城。
その城跡には今、
真っ白な十字架が
建っている。